<学校概要>

平成27年1月7日現在

◆在籍児童数　523名
（通常の学級16学級，特別支援学級3学級）

◆平成24・25・26年度「学力向上総合対策事業」
熊野中学校，熊野第三小学校と連携

◆各学年1～2割程度の児童
学習上・生活上で何らかの困難

↓

全ての児童が「できた！わかった！」と実感できる授業改善

<校内体制>

◆特別支援教育推進委員会
（校長，教頭，主幹教諭，養護教諭，特別支援学級担任，生徒指導主事）

◆特別支援コーディネーター1名

◆必要に応じて随時ケース会議

◆全職員で共有すべきことは，職員朝会，暮会等で周知

1　学校全体の取組

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた取組

Ⅰ　教室環境を整える
Ⅱ　学習のルールを明確にする
Ⅲ　授業の構成を工夫する
Ⅳ　教師の話し方，発問や指示を工夫する
Ⅴ　構造的な板書とノート指導を行う
Ⅵ　教材教具の工夫
Ⅶ　その他

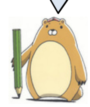
熊一小授業スタンダード

熊一小授業スタンダード
熊一小授業のこだわり！

配付資料をご覧ください。

「よい姿勢PPG」

P（ぺたん）足はぺったん床の上
P（ぴん）背中ピン（立腰）
G（ぐー）おなかと背中の間にぐーひとつ



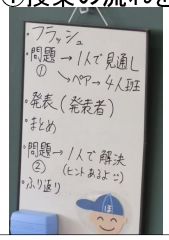
２　授業実践報告（概要）

【授業概要】
★算数科　第６学年「資料の調べ方」
★2つの資料を比べて，特徴を説明することができる。

【学級全体の状況】
★学習上又は生活上何らかの困難さがあると思われる児童も含め，クラスの雰囲気は明るく温かい。個性を認め合っているように思う。

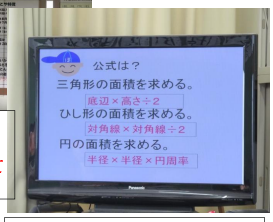
２　授業実践報告（学級全体への支援）

①授業の流れを知らせる　　②導入の工夫



授業の見通しがもてるように，ホワイトボードに記入した。
「次は4人班だ。」などと意欲的になった。

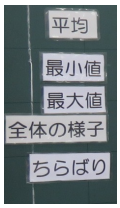
既習事項の掲示
授業中に掲示を見ながら振返っていた。



フラッシュカード等の工夫
既習事項の定着が見られた。

２　授業実践報告（個への支援）

①ヒントカードの活用　　②電卓の活用

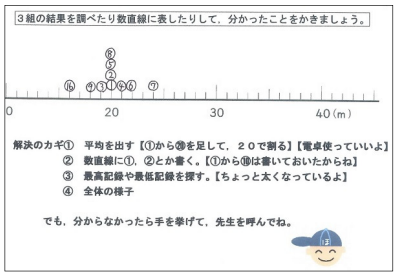


資料を比較する際に，どの観点で比較するか既習の算数用語を掲示した。
児童の多くは平均を活用しようとした。

計算で間違えないようにさせるため，電卓を使用させた。
平均値を早く出すことができ，次の方法で調べることができた。

２　授業実践報告（個への支援）

③ワークシートの工夫



・裏面に考え方のヒントとなることを書いたワークシートを配布した。
・質問しにくい児童にとって参考となった。自力解決できる児童にも，確認する手立てとなった。

２　授業実践報告（個への支援）

④支持的風土の中でのグループ学習

中学校との連携→4人班
役割分担
ペアトークやトライアングルトークも

日ごろから大切にしている「こたつ学級」を目ざして学級通信などでも「お互いのよいところ」等紹介

３　成果と課題

【成果】
○「電卓を使う」ことは効果的。
○ワークシート（ヒント入り）や掲示物を児童が利用していた。
○熊一小授業スタンダードの確立。

【課題】
▲班活動に入る前の指示が不十分だった。
（何をしたらよいのか分からない。）
▲意図をもった机間指導を。
（支援の必要な児童たちがどう困っているか理解し指導。）

ご清聴ありがとうございました。